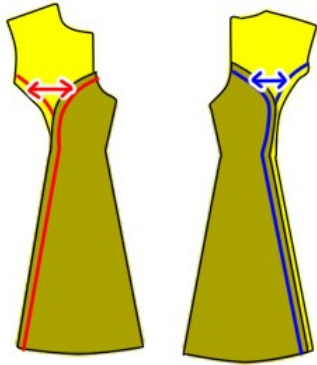


■表 ■裏

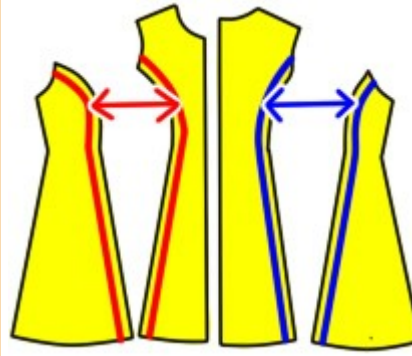
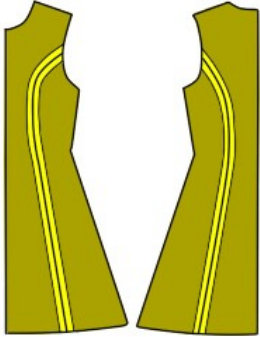
■接着芯

裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする。
見返しとえりとカフスと持ち出しの裏に接着芯を付けてください。

くわしくは縫う前の下準備を参照



↑これを広げると↓こうなる。

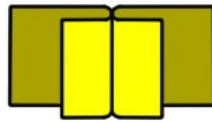


前身頃のと前身頃脇を図のよう

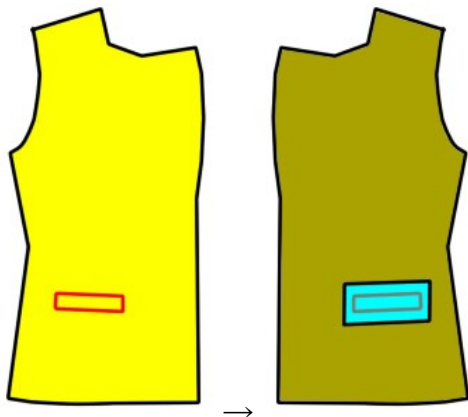
に表同士が内側になるように重ねて縫ってください。

後身頃と後身頃脇も同じように縫ってください。

縫い終わったら縫い代をアイロンで左右に折って下さい。



←洋裁用語で縫い代を左右に折る事を割るといいます。



ポケットを付ける位置に印を付けてください。

ポケットの穴を開ける場所の裏に接着芯を貼ってください。

型紙についている縫い代の印を忘れずに写してください。



雨ふた付きの服にする場合は先に雨ふたを

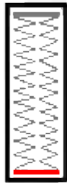
作る

2枚重ねた布が内側同士が表になるように重ね(これを中表といいますが)縫い代を縫ってください。

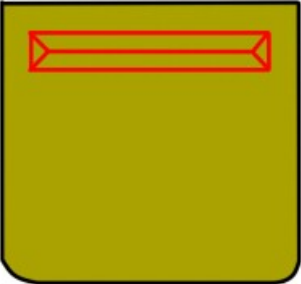
ひっくり返すために一部開けておいてください。

表に返して、アイロンで形を整えてください。
 端から 5 mm の所を縫ってください。

ボタンを付ける場合は、この時点でボタンホールを開けてください。
 ボタンホールの開け方はミシンの種類によって異なるので、ミシンの説明書を参考にしてください

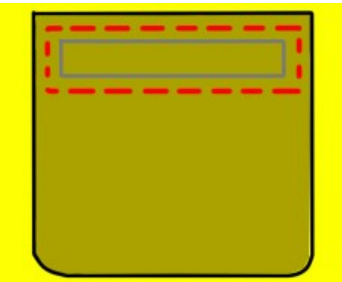
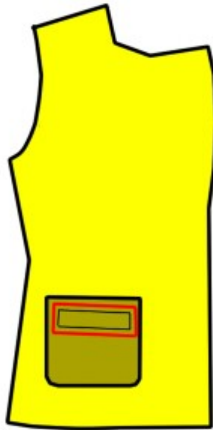


ポケット布に型紙から図のように線を写してください。

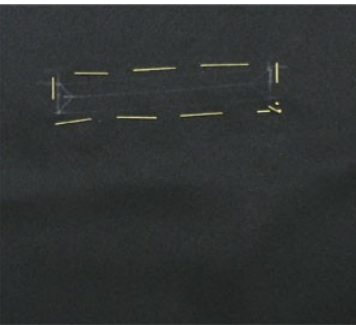


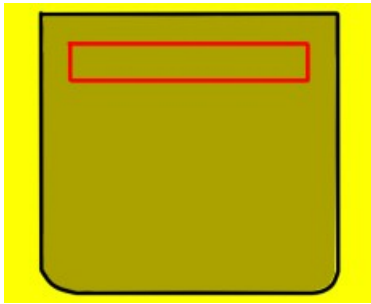
身頃に描いたポケットの印と、ポケット布の印を合わせてください。
 この時身頃は表を上、ポケットは裏を上にして重ねてください。

ずれないようにしつけ糸を使って手縫いで固定してください。
 印か 3~5mm くらい離れたところを縫ってください。
 近くを縫うとミシンで上を縫ってしまったとき、糸を抜くのが大変になります。

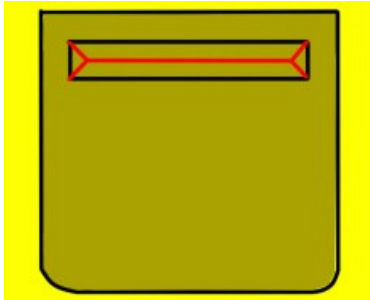


裏から見るとこんな感じ



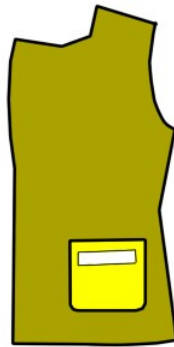


ミシンで四角の印の上を縫ってください。

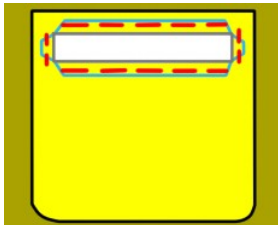


ハサミで赤の印の上を切る。

この切り口からポケット布を裏へひっくり返してください。



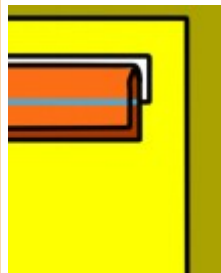
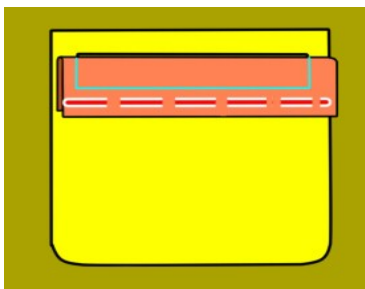
裏側へポケット布を引っ張り出したら、形を整えてピンで固定してください。



穴の端から3~5mmの所をしつけ糸で縫ってください。

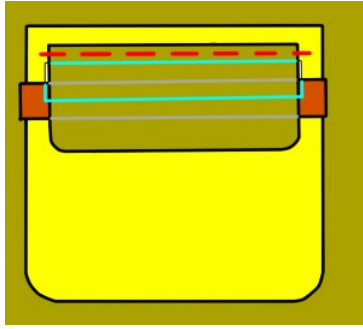


たまぶち布(オレンジ色の生地)を半分に折ってください。

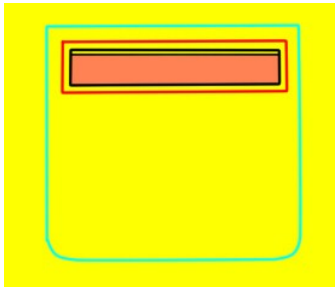


しつけ糸で玉ぶち布、ポケット布、表生地を一緒に縫ってください。

たまぶち布の端から5mmの所を縫ってください。

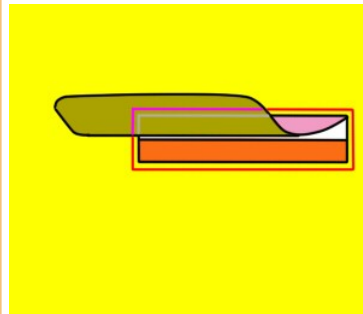


雨ぶたを付ける場合は、雨ぶたを重ね、仕付け糸で端から5mmの所を固定する。

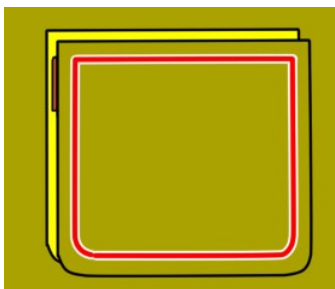


表にひっくり返して、ポケットの穴から1~2mmの所をミシンで縫ってください。

この時点でしつけ糸は外してください。

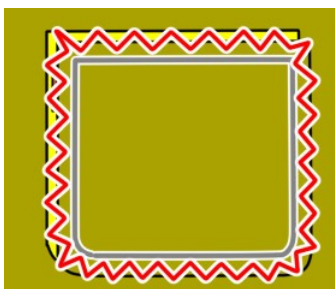


雨ぶたつきの場合は、雨ぶたを表に引っ張り出して、余計ない所を縫い込まないようによけて縫ってください。

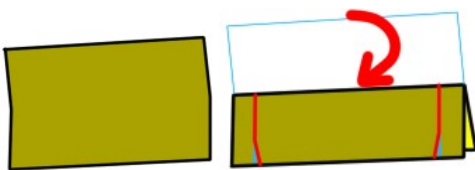


裏返して、もう一枚ポケット布を重ねてください。

ポケット布同士の縫い代を縫ってください。



ポケット布2枚一緒にほつれ止めてください。

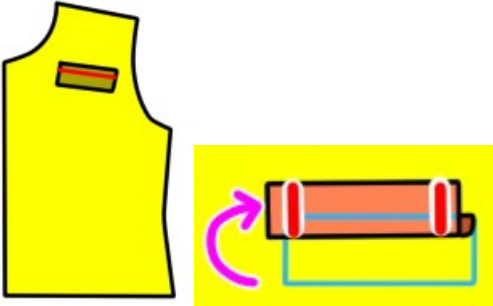

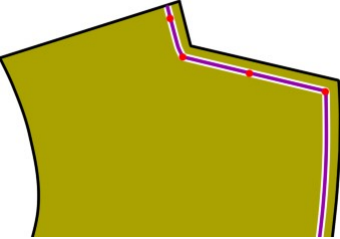



飾りの胸ポケットを作る。

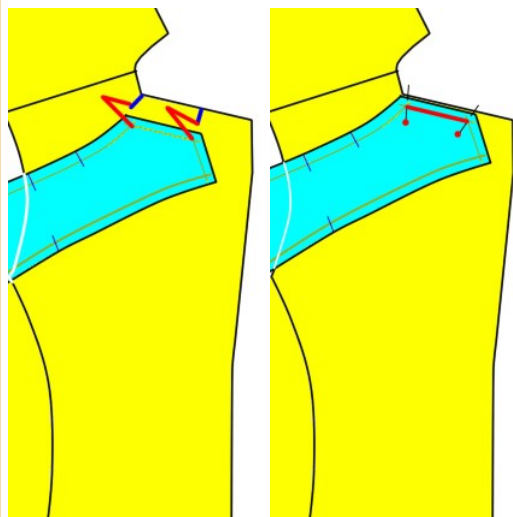
裏側へ半分に折ってください。

両端を縫う、この時下側の縫い代部分にかかる縫い目は少し内側に向けて縫ってください。

表返し、アイロンで型をつけてください。

	<p>飾りの胸ポケットは、上下逆に置いて縫ってください。 ポケットを正しい位置におこしてポケットの両脇を縫ってください。。</p>
	<p>肩を縫ってください。</p>
	<p>身頃のえりの所にも印を付けておくとより縫いやすい</p>
	<p>そのままだとえりぐりを縫うとき引きつってしまいますので、前身頃の縫い代に縫い目を切らないよう気持ち1ミリ残す感じで切込みを入れる。</p> <p>切込みを入れる場所は後ろのえり首のカーブのところ前身頃と見返しの型紙に</p> <p>印のあるところの縫い代に切込みを入れる。 — or ○</p> <p>(洋裁工房の場合この印) (8~9 mm)</p> <p>○ この模様は切込みではなく点で印を入れる。</p>

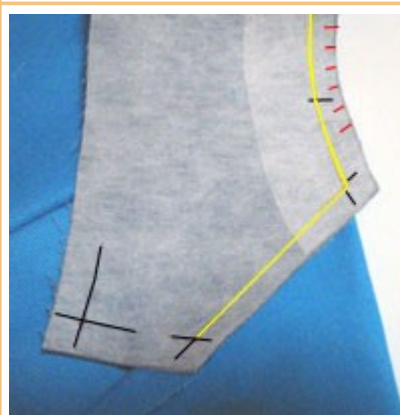
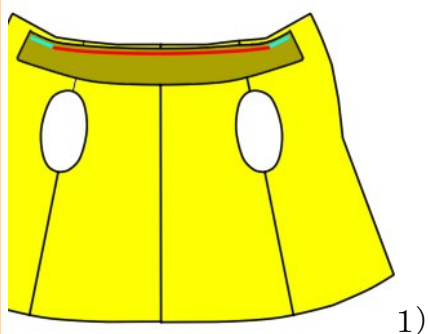
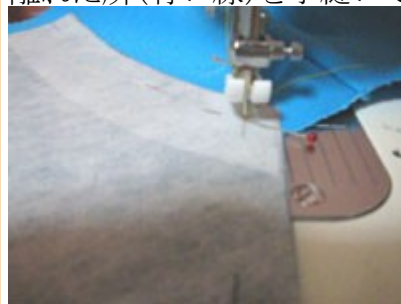
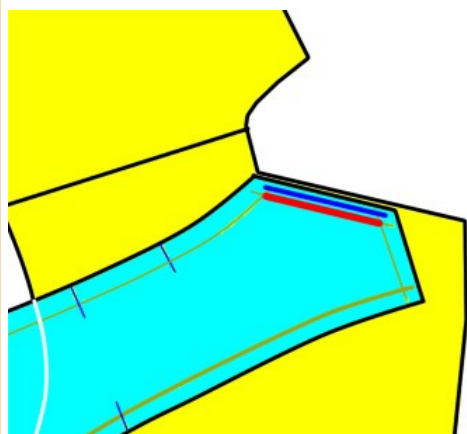
えりの印と、身頃の位置があうように、真上からまっすぐ針を刺し、固定する。



縫い始めは手動で、丁度交点に針が落ちるようにミシン針をおろして縫い始める。

縫い終わりも縫いすぎないように注意して、スピードを落とすか、手動でぴったり交点まで縫う。

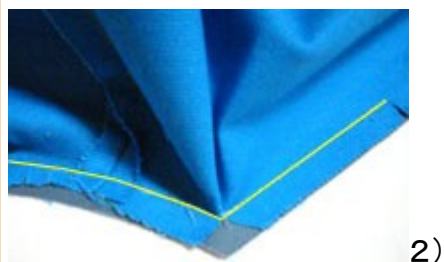
縫い慣れていない人は、ミシンで縫う出来上がり線より2~3mm離れた所(青い線)を手縫いで縫っておくと、縫いやすい。

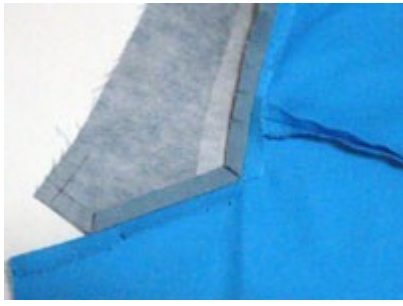


1) 首の横から後ろを縫います(赤い線の部分)
ここも、ミシンで縫うラインより2~3mm離れた所をしつけ糸で手縫いしてておく。
それからミシンで縫うと綺麗に縫いやすい。
出来るだけずれたりしないように角がきちっと合うように縫ってください。

これが重なったりずれたりすると表から見たとき引きつたように見えたりします。

2) 余分な生地を縫いこんだりしないように、図のように生地をたたんで、出来るだけまっすぐな状態にして縫うと綺麗に縫える。カーブの所は引きつたりゴロゴロしやすいので、ぬいしろに浅く切込みをいくつか入れておくと落ち着きます。



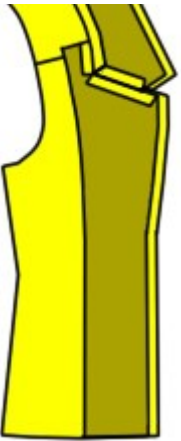


アイロンで縫い代を割っておく。



見返しにも同様にえりをつけます。

※見返しは前だけです

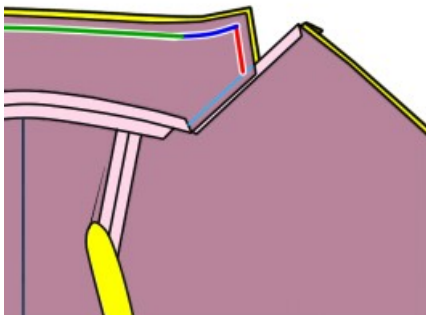


見返しにえりをつけたら中表に身頃と見返しを重ねる。

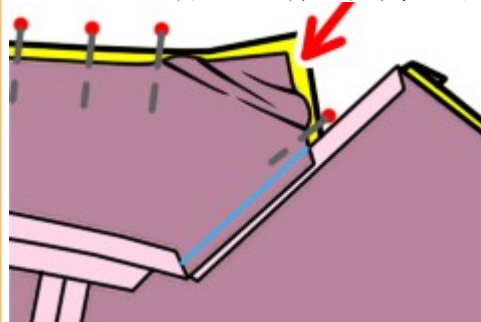


えりは図のように折り返すので、布の厚み分表と裏のえりではずれが出ます。

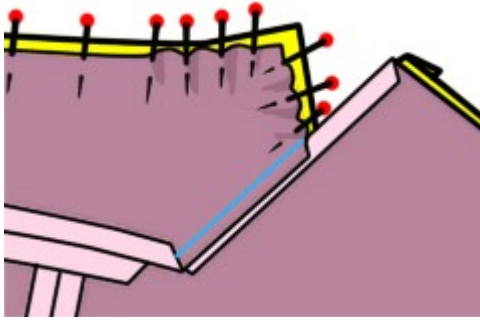
そのえりのずれの調整をします



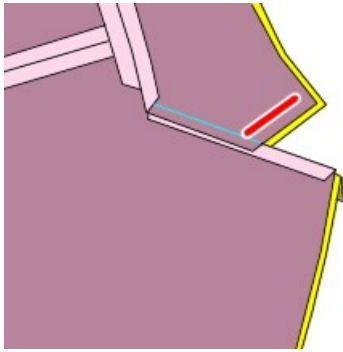
えりにピンを打つとき緑の区間は均等に打つ。



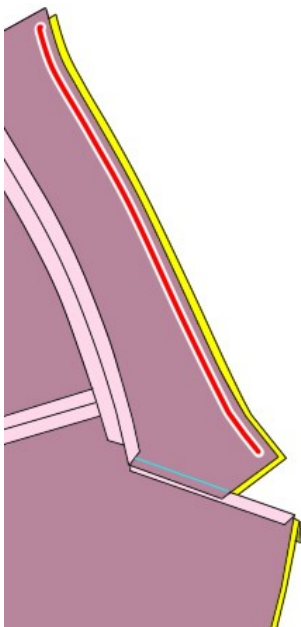
赤と青の区間は見返し側のえりを2mmほど内側にずらして縫う。



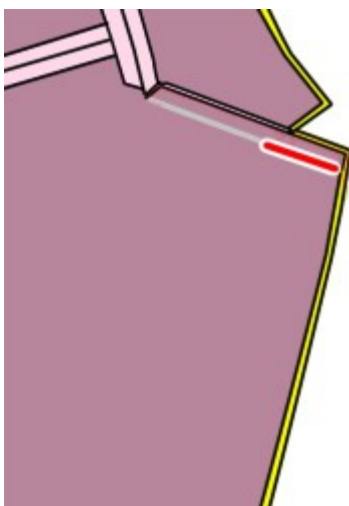
しわにならないようにずらした分を均等に分散させて、細かくピンで固定する。
ずらしたぶん生地にダブつきが出ますが、それで正解です。
ずれないようにしつけ糸でミシンで縫う場所より2~3mm離れたところを縫う。
しつけをしたらピンははずす。



えりの縫い代を縫い込まないようによけて、えりの両端を縫う。

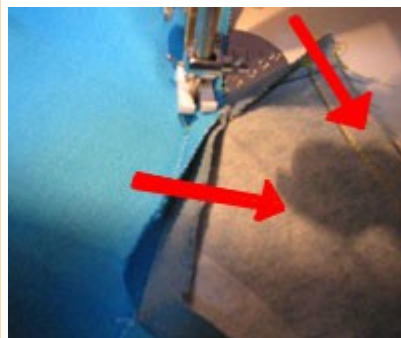


えりの上を縫う。



見返しの先からえりの境目までを縫い合わせます。

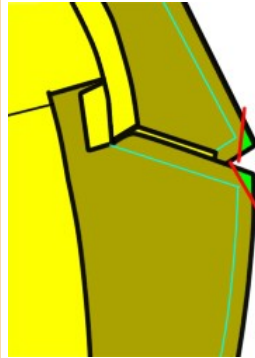
そして、最初に衿を縫った線と、合体するように縫いとめます



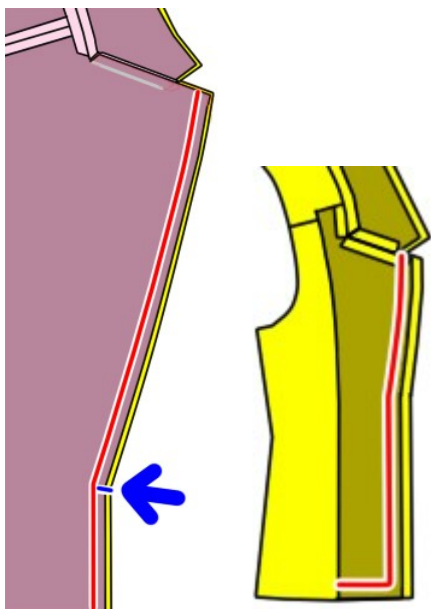
この時もえりの縫い代を縫いこまないように注意して、縫い代をよけておきましょう。

前中心を縫う。

表替えした時、角が引きつりますので、図の青い部分に縫い糸を切らない程度切込みを入れる。



表がえす時に先が厚くならないように、縫い目から2mm離れた角を切り落とす

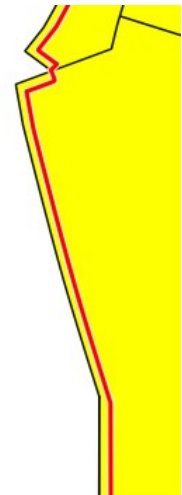
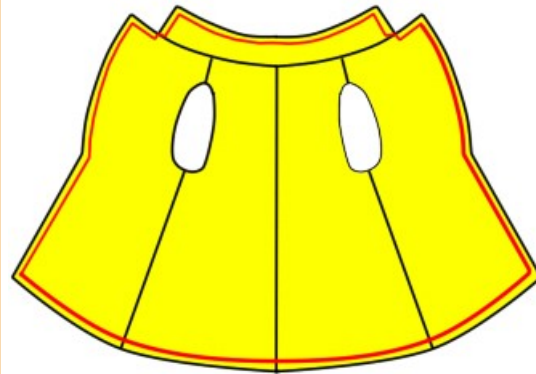


表がえす。



端から5 mm の所をミシンで縫う

(表から見える所を縫う事をステッチをかけると言います。)



えりを閉じます。

えりは半分折り返しますから、厚み分表に見えるえりと、裏に隠れるえりの長さが変わってきます。

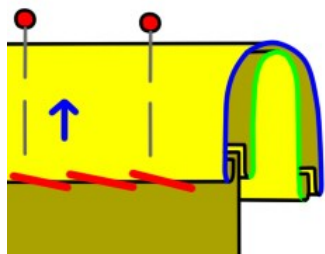
そのため型紙通りにえりのすそを折って中に入れると引きつってしまうのです。

なので、自然なカーブになるように出来上がり通りにえりを折って、ピンで固定します。

そして、えりのすそを折って内側に入れ、手縫いで縫って行くと

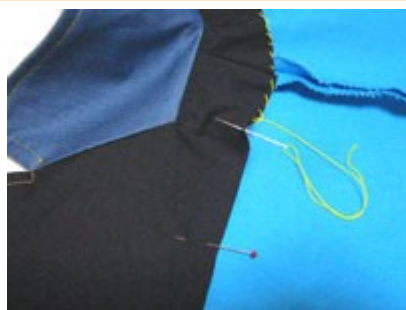


綺麗に仕上がります

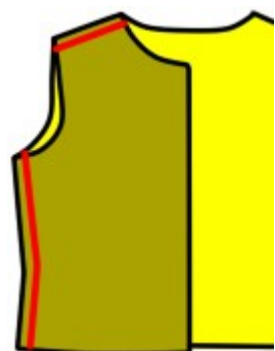


見返しもえりと同様折り返しがありますから、いったん折って、カーブのための余裕を入れてピンをシワが入らないように止めます。

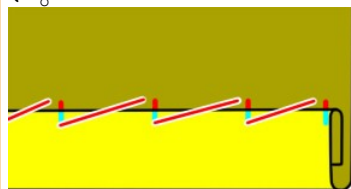
手縫いでまつって見返しを固定します。



脇を縫ってください。



すそをあげる。
アイロンで縫い代を出来上がり線で折り目をつけておく。
ミシンで一直線に縫ってもいいですが、手縫いでまつてもよい。



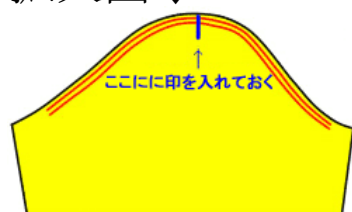
まつり縫い

そでを縫ってください。

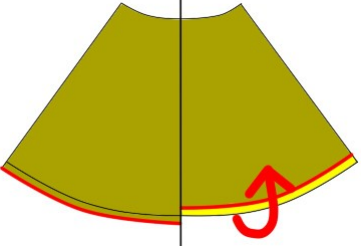

そでの山にギャザーを寄せてください

ギャザーの縫い方は別紙参照

拡大図 ↓



	<p>裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せます。 (これを一度覚えておくとスカートやいろいろな事に応用がきくので、是非チャレンジしてみましょう！)</p>
	<p>糸調整を元に戻し 2枚のそでを表側が中になるように重ね両脇を縫って下さい。 同じように裏地も縫って下さい。 アイロンでそで口を出来上がり線で折って下さい。</p>
	<p>アイロンで縫い代を折り縫って下さい。</p>
	 <p>見頃(胴部分)は裏返して、そででは表にひっくり返す。 見頃の中にそでを入れてください。 肩と、脇を最初にあわせてまち針でとめてください。 縫う場所より2~3ミリ横を仕付け糸を使い縫っておくと、ミシンで縫う時に針を折る心配がなくていいよ！ しつけ縫いをしたらミシンで縫ってください。</p>
	<p>すそをあげてください。 すそをあげるときスカートのすそがカーブしていると、カーブの弧は内側と外側では長さが異なるので、折りあげた時端がだぶついてしまいます。 そのため、すそから5mm位の所にギャザーを寄せて大きなしわが入らない程度に縮めながら、アイロンで縫い代を折って行きます。 アイロンで折り目を付けてからミシンで縫ってください。</p>

	
	<p>ボタンホールをあけて、反対側にボタンを付けてください。 上側になる前身頃の中心側だけボタンホールを開け(赤)脇側に飾りのボタンをつける(緑) 反対の前身頃の脇側にボタンをつける(青)中央側にスナップボタンをつける(水色) ボタンホールの開け方はお手持ちのミシンによって異なりますので、ミシンの説明書を見てください。</p> <p><u>どんなミシンでも作れるボタンホールの縫い方</u></p> <p>仕上げに縫い代にしっかりアイロンをかけて完成です。 仕上げのアイロンはしわをのぼすよりも、縫い代にしっかり折り目をつけることが重要です。</p>

必要な道具

表地、接着芯、ボタン、スナップボタン、ミシン糸

お勧め生地

・ポリエステルツイル ツイルとは布の織り方の名称なので、繊維の太さや、素材によって風合いが異なります。なので風合いはメーカーによって異なるので、ネット購入の場合はサンプル取り寄せをおすすめします。

化繊なので綿ツイルに比べて軽いです。

しわになりにくいです

初心者にも扱いやすい生地です。

・綿 ツイル

ポリエステルツイルに比べ、柔らかいですが、出来上がった服を着て長い時間座ったりするとシワが入ります。扱いやすい生地です

色数も多く、大体どこの手芸店でも取り扱っていることが多いです

・ウール ツィードなど。このデザインにはあまり厚い素材は向かないので、ウールでも綿ツイル位の厚さのもの(チノパン位)がおすすめです。

物によってはものすごく高級感のある仕上がりになるが、天然繊維なので虫食いに注意。

アイロンはあまり高すぎたり、強くかけると表面がテカるので、当て布をしたりしてかけてください